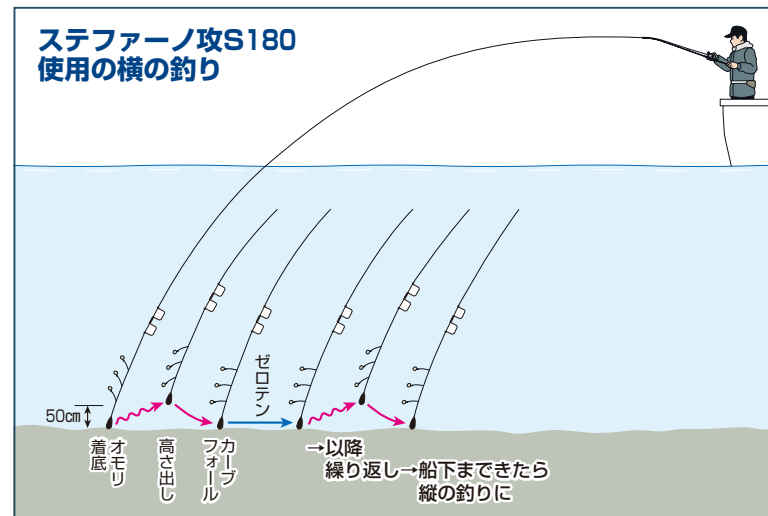


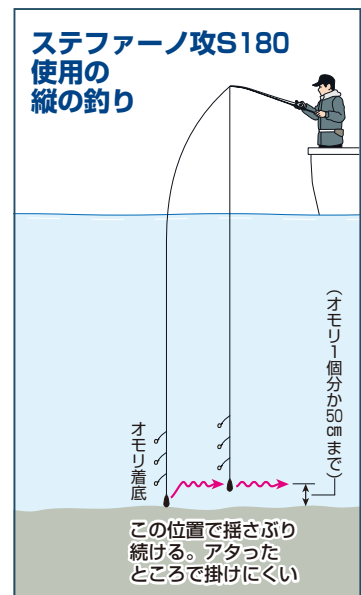
ステファーン攻S180  
使用の横の釣り



▲バラシを防止する粘りとクッション性も特長

からバットにかけ  
ては粘りのあるパ  
ワーでバラシも防  
いでくれる柔軟調  
子の設定となつて  
います。  
スナイパー釣法  
で釣る場合、オモ  
リ25号、潮の緩い  
ポイント、30メー  
トル以下の浅場な

ステファーン攻S180  
使用の縦の釣り



▶穂持から胴  
にかけては掛  
けるパワーも  
備えている  
▼良型の多い  
釣り場ほど安  
心できる



どでの使用をおすすめしますが、  
もともと軟らかめの竿が好みの  
方は、オールシーズン愛用され  
ているとも聞いています。  
S180はスナイパー釣法、横の  
釣りでの使用が一般的です。キ  
ヤストしたあと、通常は高さ出  
しで2メートルくらい揺さぶり  
で聞き上げますが、S180を使用  
する場合は50センチまでにとど  
めておきます。柔軟な穂先は穂

持まで曲げすぎてしまうと目感  
度が損なわれるからです。  
詳細は図にあるとおり、カー  
ブフォールで下ろしたあととはゼ  
ロテンで待つか、再び高さ出し  
の繰り返しとなります。  
この竿はタフテック∞搭載の  
の穂先部分、オモリを背負わせ  
たときの曲がりしるを長めに設  
定してあるので、オモリを底に  
着けた状態での目感度に優れ、  
アタリを弾きにくい  
長所があります。

もう一つは縦の釣  
りでの使用です。も  
ちろん高さ出しから  
誘い下げ、ゼロテン  
釣法なども可能で  
が、最近エキスパー  
トが採用しているの  
が、オモリ1個分  
から50センチくらい底  
を切ってユラユラと  
揺さぶってアタリを  
待つ釣法です。  
小さなアタリを目  
感度、もしくはカ-

最後にS180を使用したときの  
おすすめ仕掛けです。活性の低  
い状況下では、吸わせ系のハリ  
(ハリス10センチ)を使うのが  
一般的ですが、3本のうち1本  
はハゲ系(同6センチ)を交ぜ  
るといいでしょう。突然活性が  
上がって、ハゲバリばかりに掛  
かることも少なくないからです。  
12月中旬現在、依然として竹  
岡沖、下浦沖、剣崎沖などでは  
30メートル以浅のポイントがメ  
インなので、しばらくはS180が  
活躍する状況が続くはず。

●ステファーン攻S180は  
柔軟な調子設定。穂先の目  
感度は抜群だ



TAKASHI  
SUZUKI  
KAWAHAGI  
FISHING  
TECHNIQUE  
SNIPER'S  
METHOD

●鈴木孝のスナイパーズメソッド 第37回

今期の動向に  
合わせた  
釣り方と竿選び②

★カワハギトーナメントも年内で一段落。思うような成績は残せませんでしたが、来期につなげる感触は得られることができました。年明けからはのんびり、じっくり、試行の繰り返しでカワハギと対峙し、自分なりの引き出しをもっと増やしていきたいと思ひます。

解説●鈴木 孝



●活性の低い状況で活躍する

▲合わせが決まれば  
気持ちよい曲がりを見せてくれる

縦や宙の  
釣りでも効果的

スナイパー釣法では基本的に「ステファーン攻H17SP/同リミテッド」を始めとした硬めの竿を使いますが、捕食スピードが遅かったり、エサの食い込みが悪いときなど、つまり活性の低い場合はしなやかな穂先を持つ目感度に優れた竿、S180の出番となります。  
自重わずか76グラム、カーボンソリッドの繊細な穂先、穂持

前回は引き続き、今期の動向に合わせた最適な釣り方、竿選びについて話を進めます。  
12月に入って速潮も落ち着き、各釣り場とも本来のカワハギ釣りが楽しめるようになりました。今期は開幕から今一つの状況が続いていましたが、ようやく水温が下がってきたせいか、ここへきて釣況が上向いてきた釣り場が目立っています。  
依然として10メートル台の浅場で釣れるポイントもあり、年明け以降もまだまだ楽しみな状況となっています。  
今回、おすすめするのは「ステファーン攻S180」、つまり全体的にしなやかな調子を持つ竿の、状況に合わせた使用法と釣り方です。

